

2010年10月8日付けのビルマ民主化同盟(LDB)の声明に対する当事者である在日  
少数民族指導者たちによる声明2010年10月10日

東京、日本

2010年10月8日に在日ビルマ民主同盟(LDB)が内容の事実を正確に確認せずに発表した声明に対して私たちが在日少数民族指導者たちは下記の通り声明を発表しました。

1. 私たちは在日連邦ビルマ少数民族であり、自分たちの少数民族組織を率いている責任者たちです。マリップ・セン・ブー事務局長、在日カチン民族機構(KNO-Japan)、ソー・バ・ラ・テイン副議長、在日カレン民族同盟(KNL-Japan)、タン・ナン・リアン・タン議長、在日チン民族協会(CNC)、サイ・シー・ワン議長、在日シャン民族協会(SND-Japan)、ミン・ミョオ・チツ議長議長、在日ポンニャカリーモン民族社会(PMNS-Japan)です。

2. ビルマ国民主化獲得のため、人権を平等に享受できるため、連邦制国家を樹立するため、軍事独裁体制を打倒するために他の民主化勢力と協力して活動に参加している諸組織です。少数民族問題と民主化問題は分けることができないように置き去りにできるようなことでもありません。そのため在日ビルマ人たちが結成した各民主化活動組織と同盟を組む時、協力して活動する時であれば各少数民族として自分たちの民族問題を個別に活動をしなければならない場合もあります。

3. 私たち諸少数民族組織はビルマ国内、国境地域、各国にある自分たちの母組織と連絡を取り、指示を受け、協力し合いながら活動を行っています。自分たちの活動内容については安全確保のために知らせるべき人にだけ知らせる場合もあります。

4. ビルマ国内にある国民民主連盟、統一民族同盟と国会代行委員会はナ・ア・パ軍組織の2010年総選挙は軍事独裁体制を合法化にするための選挙であるため総選挙を反対し、抗議することを決定しました。これは正しい決定であり、全国民の意思を反映させていると信じているため私たち少数民族組織としてもこの決定を支持し、協力して活動することを継続的に行っています。安全確保のために日本国にある組織間で情報を知らせることはありませんが自分たちの繋がりや活動内容を関係者たちが認めており、記録していると存じます。

5. 私たち少数民族組織は日本国にあるビルマ問題のために活動をしている各組織の団結を常に重視しています。共同で行う活動に協力し、参加していることも団結を望んでいるからであります。指導的な立場を確保したいから、名前を出したいからではありません。ビルマ国民が団結のために共に活動に協力しているように少数民族が暮らす地域で常に起きています、毎日のように起きていますナ・ア・パ軍隊による不当な弾圧や殺害といった少数民族問

題についてもできる限りの力で解決し、協力する活動も行っております。

6. ナ・ア・パ軍事政権は少数民族武装勢力に対して休戦して和平交渉、政治的な交渉をすると偽って提案しました。少数民族武装勢力としては国内の平和と真の連邦国家樹立を実に望んでいました。

ナ・ア・パが見せかけの国民会議を招集した時和平合意を結んでいる武装勢力17組織から政治的提案を提出しましたが現在まで政治的対話が行われていません。2008年に民主化権利と少数民族の権利を無視して軍事独裁体制を長期化させるための憲法を強引に制定しました。2010年総選挙法を発表して2010年11月7日に見せかけの総選挙を実施するための準備をしています。少数民族武装組織に対して国境警備隊(BGF)へ改編するよう強制的に圧力をかけてきました。

7. 少数民族武装組織であるカチン独立機構(KIO)、カレン民族同盟(KNU)、カレンニー民族発展評議会(KNPP)、新モン州党(NMSP)、チン民族戦線(CNF)、シャン州軍(北部)(SSA-N)といったカチン、カレン、カレンニー、モン、チン、シャン民族の指導者たちは2010年5月に国境の某所で同盟協定を締結しました。この武装同盟組織は各国を訪問して自分たちの意向を説明しました。

8. 少数民族武装組織の現状、総選挙前と総選挙後に起きる状況などを説明するために少数民族指導者たちは各国を訪問しました。

ビルマ国内には総選挙に参加する勢力、国際社会と少数民族との間に総選挙に対する意見が様々であることは事実です。ビルマ国民の間で政治的な意見が異なることは自然なことであります。

しかし、少数民族武装同盟組織の意向や計画を説明するための訪問とは区別してみる必要があります。

9. 少数民族武装勢力の意向を説明するために関係本部の計画でウー・ハン・ニャウン・ウエイ とウー・ヴィッター・ビャツ・リアン は来日しました。

10. ウー・ハン・ニャウン・ウエイ とウー・ヴィッター・ビャツ・リアンの訪日に関して、2010年9月1日に中川正春日本国会議員と関係者である少数民族指導者たちが会談をしました。会談に出席した人たちは、ドー・マリップ・セン・ブ(カチン、KNO-Japan)、ウー・タン・ナン・リアン・タン(チン、CNC-Japan)、サイ・シー・ワ(シャン、SND-Japan)、ソー・パ・ラ・テイン(カレン、KNL-Japan)、ミン・ミョオ・チツ(モン、PMNS-Japan)です。通訳人はビルマ問題、少数民族問題についていつも協力して下さっているウー・シュエイ・バ(田辺氏)です。

11. このように武装同盟組織の意向を説明するために訪日したウー・ハン・ニャウン・ウエイ、ウー・ヴィッター・ビャツ・リアンと日本国会議員との会談に在日少数民族指導者たちも同席しました。

12. 日本国で2010年8月29日に総選挙ボイコット委員会(EBC)が結成され、28組織が参加しました。この委員会は共同行動実行委員会(JAC)が中心になって結成され、JACに参加していない組織もこの委員会に参加しました。私たち少数民族組織は上述のように少数民族の地域、政治問題を毎日のように解決しなければならないため総選挙ボイコット委員会において指導的な立場から主な役割を担うことはできませんが団結のために活動に協力しています。(各自の政治的役割があるからであります。この総選挙ボイコット委員会の任期として総選挙後に自動的に廃止することです。)

13. 上記の件に関して違った見解から批判的な発言があったため総選挙ボイコット委員会の会議でウー・ミャツ・トゥ(新社会民主党)は一個人として、ウー・ライ・エイ(ビルマ民主化同盟、LDB)は自分が所属する組織の代表としてこの件について関係者たちが説明をするよう申し出ました。

14. ウー・ミャツ・トゥ は人づてに聞いたことであり、お互いの間に疑いを持ってほしくないからであること、そしてウー・ライ・エイは通訳人であるウー・シュエイ・バから聞いたことである、と説明をしました。同席した少数民族たちからもウー・ハン・ニャウン・ウエイ とウー・ヴィッター・ビャツ・リアンの訪日は極秘訪問ではありませんが関係者たちだけに知らせていた、と説明をしました。日本国政府として総選挙を支持するよう、応援するよう呼びかけるための訪日ではないこと、少数民族武装組織が同盟協定を結んだことと国境警備隊への改編を強制的にさせていることに関する訪日である、と説明をしました。

多くの委員メンバーは総選挙を反対する活動、政治的に大変重要な時期にこの件にたくさんの時間をかけるべきではない、と述べました。一部の委員はウー・ハンとウー・ヴィッターは総選挙を支持している人たちであること、各国を訪問して説明をしている人たちであること、はっきりとしなければ今後問題に発展する可能性があること、などを述べ、話し合いました。

15. 総選挙ボイコット委員会の2010年9月12日の会議、2010年9月19日の会議でこの件について引き続き話し合われ、多数の意思により下記の方たちに役割を任命しました。

- (1) ウー・ライ・エイ (ビルマ民主化同盟、LDB)
- (2) ウー・タウン・ミンツ・ウー (国民民主連盟(解放地域-日本、NLD-LA JP))
- (3) ウー・ゾー・ミン・カイ (アラカン民主連盟、ALD-Japan)
- (4) マイ・チョウ・ウー (国民民主勢力(ビルマ)、NDF-Japan)
- (5) ウー・タン・スイエ (ビルマ民主化行動グループ、BDA)
- (6) ウー・コー・コー・アウン (ビルマ民主連盟、DFB)
- (7) ウー・ルイン・アウン・ソウ (セーフ ビルマ)

16. 上記の任命された7名より2010年9月25日にウー・ハン・ニャウン・ウエイ とウー・ヴィッター・ビャツ・リアンの2010年9月1日の訪日に関して2010年総選挙ボイコット委員会(日本)から声明を発表しました。(添付しました。)

私たち全員は上記の7名が発表した声明文に対して抗議していません。何故なら、私たちは同盟協定を結んでいる少数民族武装組織の意向を説明するため、会談するために訪問をしたからです。もし総選挙に関する意見を説明するための訪問であれば一切行くことはありません。

17. ビルマ民主化同盟(LDB)は日本国で早期に結成された組織の一つであります。日本国で多くの組織が結成され始めて組織数が増加する以前から現在まで各少数民族はLDBの堅固な勢力であります。私たち少数民族組織とLDBは一個人の指導に基づくような関係ではありません。各民族、各組織が同盟関係を築いて共に活動し、ビルマ問題、少数民族問題のために活動をしているのであります。

18. ビルマ民主化同盟(LDB)も総選挙ボイコット委員会(日本)に参加している一つの組織です。2010年9月25日付けで総選挙ボイコット委員会(日本)が発表した声明文にはLDBの意思も既に含まれています。声明文を書いた7名で結成された委員会の中にLDBの指導者一人も含まれています。このようにLDBの意思も含まれている声明文が発表されましたが、納得せずに2010年10月8日にLDBの組織名で引き続き声明文を発表しました。

19. LDB組織の声明文に個人的に非難をする内容が書かれています。少数民族指導者たちの行動は自分たち少数民族組織とは関係がないように書かれています。少数民族組織と少数民族指導者たちを一切分けてみることができません。そのためLDB組織が発表した声明文は私たち個人を名指して発表した声明文であると私たちは見なしています。

20. そのため2010年10月10日付けで少数民族指導者5名により共同声明を発表しました。

## ウー・ハン・ニャウン・ウエイ とウー・ヴィッター・ビャツ・リアンの 訪日に関する声明2010年10月10日

東京、日本

1. 2010年5月に武装勢力であるカチン独立機構(KIO)、カレン民族同盟(KNU)、カレンニー 民族進歩党 (KNPP)、新モン州党(NMSP)、チン民族戦線(CNF)とシャン州軍(北部) (SSA-N) は会談して軍事同盟関係を築き、協定を締結しました。ナ・ア・パ軍事政権が諸少数民族武装組織を国境警備隊として強制的に改編させていることを拒否することを決定しました。
2. そのためナ・ア・パ軍事政権が少数民族問題を政治的な対話をして解決せずに軍事的に強引に攻撃した場合軍事力が対等ではない少数民族側から多くの死傷者を出す可能性があり、戦争難民も増加することになります。
3. このような問題を事前に防ぐために同盟協定を締結している少数民族

指導者たちは各国を訪問して会談をし、報告を行っています。国際社会がナ・ア・パ軍事政権に対して戦争に発展しないよう外交的手段で戦争を阻止して下さるのであれば少数民族が直面する困難と命の危険から守ることができるのであります。

4. 2010年8月22日にナ・ア・パ軍事政権はカチン武装勢力とモン武装勢力に対して武装解除の最終期限を2010年9月1日と決めました。
  5. このような重要な少数民族問題について会談するために2010年9月1日にウー・ハン・ニャウン・ウエイ、ウー・ビッター・ビャツ・リアン、マリップ・セン・ブ、ウー・タン・ナン・リャン・タン、ソー・バ・ラ・テイン、ミン・ミョオ・チツとサイ・シー・ワンは日本国会議員である中川正春議員のところを訪問しました。通訳人としてウー・シュエイ・バ(田辺氏)が同行しました。ビルマ国の2010年総選挙を支持するよう求めるための訪問ではないことを表明します。
1. マリップ・セン・ブ (事務局長、在日カチン民族機構) (KNO-Japan)
  2. タン・ナン・リアン・タン (議長、在日チン民族協会) (CNC-Japan)
  3. ソー・バ・ラ・テイン (副議長、在日カレン民族同盟) (KNL-Japan)
  4. サイ・シー・ワン (議長、在日シャン民族民主主義会) (SND-Japan)
  5. ミン・ミョオ・チツ (議長、在日ポンニャカリー モン民族協会) (PMNS-Japan)

## ビルマ民主化同盟

文書番号：LDB/23/2010

日 付：2010年10月8日

### ウー・ハン・ニャウン・ウエイ と ヴィクター・ビアツ・リアン の訪日 に関する声明

1. ビルマ民主化同盟は独立した自由な組織であり、ビルマ国の民主化と人権獲得のための活動をしている組織でもあります。ナアパ軍事独裁者たちが実施する予定である2010年11月7日の総選挙はビルマ軍隊が永久に統治できることを目的にした選挙であると受け止めています。そのためこの総選挙を

断固として反対し、抗議します。

2. ビルマ国内の国民民主連盟、統一民族同盟と国会代行委員会はナアパ軍組織の2010年総選挙は軍事独裁体制を合法化するものであるため反対し、抗議することを決定しました。この決定は正しく、全国民の意思を反映させている、と信じます。

3. ウー・ハン・ニャウン・ウエイ と ヴィクター・ビアツ・リアンが各国を訪問して2010年総選挙を支持するよう呼びかける活動はナアパ軍組織の軍事独裁体制を持続させるために支援する活動であると私たち同盟は見なしています。彼らが来日して一人の日本国会議員と日本外務省の担当者たちと会談をした際に2010年総選挙を支持するよう呼びかけた、と聞きました。連邦ビルマ国の少数民族として自民族が直面している状況と地域内での問題について説明をすることは必要なことである、と私たち同盟は受け止めています。

4. このように会談しに行く際に日本国で結成された2010年総選挙ボイコット委員会(日本)に参加している組織の一部の責任者たちも同席した、と聞きました。同席した人たちは、マリップ・セン・ブ、ウー・タン・ナン・リャン・タン、ソー・バ・ラ・テイン、サイ・シー・ワム、ミン・ミョオ・チイツ です。

5. 議員との会談でウー・ハン・ニャウン・ウエイ と ヴィクター・ビアツ・リアンの発言に納得しなかった、受け入れることができなかったため2010年9月19日に行われた2010年総選挙ボイコット委員会(日本)の会議でそのことについて説明されました。ミン・ミョオ・チイツ が事実を正直に話してくれたためその内容を知ることができました。

6. 2010年総選挙をボイコットすると表明した人たちが2010年総選挙を支持するよう呼びかける活動をしている人たちと政治的な協力をする行為は二股行為である、と私たち同盟は見なしています。2010年総選挙はビルマ全国に関係することであるため自分たち同盟としてはどうしても無視することができず、このように明確な声明を発表することにしました。

7. そのため、ビルマ民主化同盟はマリップ・セン・ブ、ウー・タン・ナン・リャン・タン、ソー・バ・ラ・テイン、サイ・シー・ワムら(彼らが代表する組織は含まない)と今後政治に関する活動を行うことはありません。その他、ビルマ国で軍事独裁体制を長期化させるような行為を支援するいかなる人、いかなる組織に対しても反対し、抗議していきます。

8. ドー・アウンサンスーチー、ウー・クン・トウン・ウー、ウー・サイ・ニョンツ・ルインをはじめとする少数民族指導者たち、ミン・コ・ナイを含め学生指導者たちと全ての政治囚が釈放されるため、ビルマ国で真の民主主義を繁栄させるためと人権獲得のため、全国民が平和的に共存できるように革命忠誠心を持って努めて行きます。

執行委員会（代理）

チョウ・チョウ・ソー  
（議長）

ビルマ民主化同盟